

新しい生活様式での分析型官能評価

ミニトマトのリモート官能評価

成果の特徴

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも、多様な働き方への対応からも必要な、リモートでの分析型官能評価を試行しました。
- 評価手順の統一などに留意すれば、リモート実施は可能であると考えられます。

成果の内容

評価内容

評価系は開発済のものを利用¹⁾

1. においかぎ評価



酸っぱいにおい
未熟な果実の青臭いにおい
イチゴ様の甘いにおい

2. 口中圧縮評価



酸味
甘味
うま味
ジューシー感

3. 切断評価



かたさ
皮の噛み切りやすさ
なめらかさ
粉っぽさ

試料等送付

温湿度の制御のために

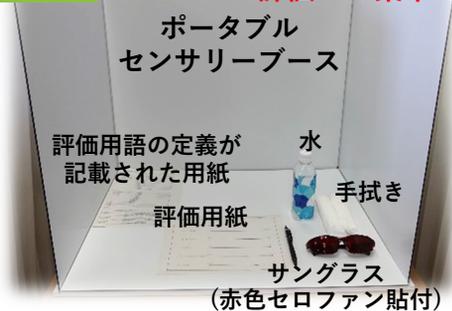


紙製の緩衝材
穴のあるパック
クール便で発送
温度記録計同封

受取後は冷蔵庫保存→評価1時間前に室温へ
その日のうちに評価

評価環境

評価への集中のために



パネリストが試料を洗浄、ふき取り、カット、
→指示された試料提示順どおりに評価

パネル

“食品研パネル”として適性は確認済

近隣住民・研究所内から選抜・一般的訓練
トマトに特化した選抜・訓練
トマトの評価経験 8~1年（年間約30時間）

結果

リモート評価の可能性を確認²⁾

評価場所を変えて2回実施（パネル半数入替）
食品研究部門官能評価室とパネリスト自宅で
評価結果に有意差なし

成果の活用

試料の性質による適用限界はありますが、さまざまな官能評価で利用できます。
評価系の開発についてもリモートでの実施を検討中です。

1) 早川他, 日本食品科学工学会誌, 66, 408-419 (2019) 2) 早川他, 日本食品科学工学会第68回大会要旨集 (2021)

本研究は、NEDO「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」プログラムにより実施されたものです。